

重複書誌を減らすための諸提案

琉球大学附属図書館 古謝 久美子
神戸大学附属図書館 平岡 宏美
東京大学医学図書館 白木 裕子

はじめに

平成 15 年度の NII の統計によると、新規作成書誌 475,962 件のうち重複書誌 8,274 件、削除予定レコード 20,393 件の合計 28,667 件で、削除率 6.0%と高い確率で作成されている。NII が以前よりニュースレター等で何度もアナウンスしているにもかかわらず重複書誌が増え続け、総合目録データベースの品質低下を招いている。接続館・登録件数・遡及入力件数・外注業者による入力件数の増加、目録担当者のスキルの低下など様々な要因が考えられるが、実際に現在の状況を改善するにはどうしたらよいか検討した。

問題点の分析

1. 重複書誌作成前の原因

基本的な知識の欠如による操作ミス、単純ミス

ISBN が付与されている重複書誌が平成 15 年度で 22.3%

書誌作成の判断基準が分かりにくいことによる重複書誌作成

頼みの綱の NACSIS-CAT/ILL ホームページ上の情報に古いものと新しいものが混在しており、どの程度古いものまで信頼してよいか判断に迷う。また、初心者はまずどこから見たらよいか分かりにくい。

2. 重複書誌作成後の原因

レコード調整が煩雑

- ・レコード調整が遅れることにより所蔵館が増加し、調整が複雑になるため、更なるレコード調整の遅れを招く。

- ・総合目録という性質上、自館が調整しなくても他参加館による調整を待つ体制になりやすい。

チェック機能の低下

- ・目録カードの廃止などにより、紙媒体で見ても改めてチェックすることがなくなってきた。
- ・大学図書館では2～5年で異動が当たり前になっており、専門家を育てる体制ではない。

問題点に対する対策

- 1 - 基本的な知識の欠如による操作ミス、単純ミスについて

目録システム講習会の受講の促進（受講希望者数と実際に受講できた人の割合）

	H13	H14	H15	H16
受講希望者(人)	563	481	468	424
うち受講者(人)	429	405	359	321
受講率	76%	84%	77%	76%

上記受講希望者及び受講者数は、地域目録講習会及びNIIの目録講習会の合計人数
H16の目録講習会は終了していないので最終的な数値ではない

上記の表からも分かるように講習会が受講希望者全てをカバーできていない現状では、目録登録の基礎知識があいまいなまま業務を行っている可能性もある。

掲載はしていないが、地域によって受講率に格差も生まれている。（地区によっては、希望しても半数近くが受講できない年もある）。また、NII目録講習会では、年度前半の希望者が多いため受講率が低くなるが、後半になると欠員が出ている回もある。

現在この講習会に関して、一度受講した職員は再受講できるシステムがなく、数年おきの異動により目録業務に携わらない期間が生まれる。再度、目録業務を行う際には、復習の意味でも目録講習会を受講できる仕組みが必要ではないか。また、図書館によっては非常勤職員や外注業者が目録業務に携わっている場合もあり、非常勤職員および外注業者においてもスキルアップのために受講の機会を与えていくべきである。

現在の受講回数や時期の見直しを行い受講率を上げることが、目録業務に携わる者全体のスキルアップに繋がり、操作ミス・単純ミスを防止することができる。

受講希望者全てが受講出来ていない
非常勤職員及び外注業者も受講可能に
再受講を可能に



受講回数の増加・開催時期の見直し

1 書誌作成の判断基準が分かりにくいことによる重複書誌作成について

NACSIS CAT/ILL のホームページを、目録担当者のレベル別の目録に関するポータルサイトに加工し、情報にアクセスしやすくする。

入門者・初心者・エキスパート等にわかる

特に初心者用に具体例を多く示す

過去のシステムニュースレターの連載ものなどで有効な記事を表示する

目録システム講習会のホームページからも参考に出来る情報を提供する

例 (別紙1 参照)

- ・ 目録システム講習会の検索課題集 (解答と解説)
- ・ 初心者向き これだけは知っておきたい! 事例集
- ・ 目録作成の悩み解決 (初心者編、具体例図書編・雑誌編)
- ・ 参照 MARC 流用の基本
- ・ 最近多い事例 100
- ・ レコード調整とは レコード調整の方法、指針
- ・ 削除予定レコードの作成方法について

2 - レコード調整が煩雑

参加組織レコード E-mail フィールドの BOOK 欄にメールアドレスを登録していない館について登録を促す。

目録システム利用図書館間のレコード調整を効率的にするため、従来の FAX 等による連絡方法に加えて、電子メールによる連絡を活用できるように「レコード調整連絡ツール (<http://mokuren.nii.ac.jp/recordctl/>)」を NII で提供している。しかし、実際に電子メールを使って連絡をするためには、各参加館が参加組織レコードの E-mail フィールドに正しい記述方式 (下記例参照) に従って電子メールアドレスを登録しなくてはならない。現状では電子メールアドレスを登録している館が全体の 43% と低く、うまく機能していない。

例：

(1)担当毎に異なる場合

(図書目録担当) BOOK:book@lib.nii.ac.jp

(雑誌目録担当) SERIAL:serial@lib.nii.ac.jp

(ILL 担当) ILL:ill@lib.nii.ac.jp

(2)各担当で同じ場合

BOOK,SERIAL:mokuroku@lib.nii.ac.jp

(「NACSIS-CAT/ILL ニュースレター6号 (2002.3.29)より」)

「NACSIS-CAT/ILL ニュースレター6号 (2002.3.29)」に「電子メールによるレコード調整及び参加組織ファイルへのメールアドレスの登録」に案内が掲載された後、NII による積極的なアナウンスはない。掲載された内容も、登録すると電子メールによる書誌調整が可能になると記載されているが、電子メールアドレスを登録しないことによるデメリットには触れられておらず、登録を促進する内容ではない。

また、2004年10月27日現在、参加館の18%(318館)が間違った記述文法で入力しており、うまく電子メールがない送れない状況になっている。これらの館に関しては、NIIによる修正依頼ですぐにでも解決できると思われる。

	2003.11.19 現在	2004.10.27 現在
正しくメールアドレスが入力されている	758 館(41%)	766 館(43%)
正しくメールアドレスが入力されていない	-	318 館(18%)
メールアドレスが入力されていない	1076 館(59%)	683 館(39%)
総参加館数	1834 館	1767 館

2004.10.27現在 約57%がメールアドレスを登録していない(もしくは使えない)

2003.11.19 約59%がメールアドレスを登録していない

重複連絡フォーム(<http://cattools.nii.ac.jp/qanda/dupuketuke.php>)のような調整を軽減するツールを開発することにより、2003年同時期に比べ4.25倍の報告を集めることができた。今後、重複連絡フォームの認知度が上がり、その活用が定着すれば、データベースの品質の向上につながる事が予想される。

ツール開始 2004年7月~9月末まで 850件(2003年同時期に比べ4.25倍)

2003年同時期(FAX,EMAIL,Q&A-DB等) 約200件

2 - チェック機能の低下について

相互チェック機能の導入

重複書誌を作成された場合でも、その書誌が早期に削除できればそれだけレコード調整に手間がかからなくなるという観点から、作成館ではない第1館目の所蔵館（通常第2館目）にチェックを義務付ける。他館からチェックをされるということは、目録の作成に緊張感と責任感を持たせることになる。

(例)

1. 作成館ではない第1館目の所蔵館が所蔵を付ける。
2. 「貴館はチェック館です。書誌内容を現物と照会し、記載内容に間違いがないか確認をしてください。」というメッセージが出るようにする。
3. 現物とデータを照らし合わせて内容に誤りがないか確認し、誤りを見つけた場合は、フォームを使用して連絡。

各館の重複作成数など館名を出した統計の公開で自覚を促す。

まとめ

共同分担目録である限り、重複書誌が発生してしまうことは避けられない。しかし、目録システム講習会などの研修プログラムを通して、目録業務に携わる者全体の知識の向上と意識の統一を図り、単純ミスや操作ミスを極力削減することがデータベースの品質向上につながるのではないかと考える。また、相互チェック機能の導入など、作られた目録を利用するだけではないシステムを作り上げることも必要であると考えます。

謝辞

このレポートを作成するにあたり、国立情報学研究所企画調整課研修係のみなさま、ならびにコンテンツ課のみなさまには多大なご支援・ご協力をしていただき、誠にありがとうございました。

(別紙 1) ポータルサイト例

